

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

がん研有明病院食道外科での研修を終えて

岐阜大学腫瘍外科

末次 智成

日本臨床外科学会国内外科研修プログラムにより平成30年10月22日から11月2日までがん研有明病院食道外科で研修をさせていただきました。このような素晴らしい機会を与えていただきました日本臨床外科学会 跡見裕会長，国内外科研修委員会 高山忠利委員長，ご推薦いただきました日本臨床外科学会 岐阜県支部長 吉田和弘教授に深く御礼申し上げます。また今回の研修にあたり快く受け入れてくださいましたがん研有明病院病院長の佐野武先生，食道外科部長，消化器外科部長の渡邊雅之先生をはじめ食道外科の先生およびレジデントの先生方に心から感謝申し上げます。

私は卒後7年目で5年目より現在の職場である岐阜大学医学部附属病院消化器外科に勤務しております。当科では進行癌に対する集学的治療，早期癌に対する低侵襲手術をモットーに手術のみならず化学療法や再発治療も含めて取り組んでおりますが，食道チームに所属し1年半以上が経ち，食道がんの手術や周術期管理，集学的治療に関しても徐々に理解でき，食道がんの診療に関してとても興味が湧き，将来的には食道外科の道を志したいと考えるようになっていく時期に今回の研修のお話をいただきました。

応募するにあたり，せっかくの機会ですので，年間100例以上の食道癌手術のほとんどを胸腔鏡下で施行されているご施設で定型化された手術や周術期管理を学びたい，日本随一の消化器外科手術件数を誇る病院ではいかにして治療方針の検討がなされ，どのようなカンファレンスをされているのかを実際に見学したい，同世代のレジデントが多く働いている病院でその姿をみて自分のモチベーションや今後の目標を明確化したいという3つの理由から，がん研有明病院食道外科で2週間の研修をさせていただくこととなりました。

がん研有明病院食道外科では渡邊先生をはじめとする3人のスタッフと4人のレジデントの先生方が診療にあたられており，私は幸いにも2週間で7件もの食道癌手術を見学させていただくことができました。食道がん手術の難しいところは手術侵襲が高度であり，癌の根治度（郭清）と機能温存（特に反回神経）の境界が非常にシビアであることかと思います。がん研の手術では胸部操作はすべて鏡視下で施行され，術者がどの先生であっても定型化されており，適切な剥離層で一つ一つの微細な解剖構造を認識し，全員で視野を共有しながら丁寧かつ適切に郭清される様子を目の当たりにし，大変勉強になりました。また術式も胸腔操作先行の症例のみならず，頸部・腹部先行で施行された症例や，結腸再建を施行した症例，さらには再建経路も胸骨後，後縦隔などバリエーションに富んでおりました。一方でほとんどの手術は定時に終了しており，またいずれの症例も出血量がとても少なく，周術期のバイタルの変動はほとんどなく，即日抜管され術後も大きなトラブルがないというとても安定した経過をたどっており，定型化されたすばらしい手術手技と周術期管理の寄与するところが大きいと感じました。

月曜日朝の消化器カンサーボード，火・木の朝の消化器外科術前・術後カンファレンス，火曜日夕方の方の食道カンファレンス，水曜日朝の食道外科カンファレンスなど様々なカンファレンスに参加する機会も多くいただきました。消化器外科カンファレンスでは数多くの手術症例をレジデントの先生方が簡潔にまとめ，プレゼンテーションをするだけでなく，上級医からの厳しい質問に対してもその疾患や患者の背景や治療方針を決めた経緯，自施設のデータや文献的検索も踏まえて回答しておられました。食道

外科カンファレンスでは食道外科，消化器内科，化学療法科，放射線科が病期のみならず患者背景，基礎疾患，既往歴や全身状態も考慮し治療方針の相談を重ねており，より良い治療を患者さんに提供しようとする姿勢がとても素晴らしいと感じました。

研修中には日々の臨床のみならず研究や論文作成，学会発表等でお忙しい中，私のために歓迎会，送別会も開催していただきとても感謝しています。同世代の先生方のこれまでのキャリアや今後のビジョン，さらにはプライベートなお話も伺うことができ，自分の将来の目標をより明確にするとともに良いきっかけであったと思います。さらに現在がん研有明病院では働き方改革としてできるだけ時間内にすべての業務を終わらせる取り組みがなされているようで，レジデントの先生方が協力して切除された標本をすぐに整理したり，空いているレジデントの先生は手術に入られている先生方の分まで病棟業務をされ，食道外科のチームとしてまとまりがありとてもいい雰囲気働いている姿がとても印象的でした。

2週間という研修期間でしたが，食道がんに対するトップレベルの手術を肌で感じる事ができたことはもちろん，患者さんに合わせて適切な治療を提供しようと努力することの大切さを再認識し，忙しい中であってもレジデント同士で協力し合い，切磋琢磨できる環境を目の当たりにしたことは今後臨床を続けていく上での大きな財産になると強く感じました。多くのご指導を賜りました渡邊先生をはじめとするがん研有明病院の先生方に重ねて御礼申し上げます。

最後になりますが，本研修にあたり快く送り出してくださった岐阜大学医学部腫瘍外科の吉田和弘教授やスタッフの方々にこの場をお借りして心から感謝申し上げます，研修の報告とさせていただきます。